

## 良寛の俳句

金山有秋

良寛の芸術といえは先ず書であり漢詩であり和歌である。しかし、俳句も数は少ないが、時にふれ折にふれ作っている。そこには、父以南の影響が見える。

### 良寛俳句の特長

#### 一、即興性とユーモア

手ぬぐひで年をかくすやぼんおどり

屋根引の金玉しばむ秋の風

柿もぎの金玉寒し秋の風

#### 二、自然に対して親しみと驚き、新鮮なものへの感嘆

鶯に夢さまされし朝げかな

誰れ聞けと真菰が原のぎやぎやし

鳩の巢のところかへする五月雨

三、人間的な温かさ。良寛の人間性

稲舟をさし行方や三日の月  
盗人にとり残されし窓の月  
焚くほどは風がもて来る落葉かな

四、佛教の言葉をうまく句に溶け込ませ、核心をつく

摩頂して独り立ちけり秋の風  
蘇迷廬の訪れ告げよ夜の雁

五、日本や中国の古典を題材・背景にした句

新池や蛙とびこむ音もなし  
鶯や百人ながら気がつかず  
同じくば花の下にて一とよ寝む  
顔回がうちものゆかし瓢哉